

人生を拓く

④

原谷 はらや 茂さん しげる (88)、はつよさん (85) Ⅱ35区



第三尋常小学校を卒業後、15歳で志願して旧日本海軍の横浜・武山海兵団に入隊。1年ほどで終戦を迎え、帰郷後に入植2代目の父親の左官業を継ぎました。

戦後の食糧難時代、左官業の傍ら、近所の水田を買って耕作。間もなく1947(昭和22)年ごろ、五線の沢一帯の道有林を森林火災など災害から守るため森林愛林組合を組織、10年間組合長を務めました。町内最

後の愛林組合長でした。

その間、まじめな性格と左官の腕を見込まれて地元の建設会社、藤田組に入社。30年間勤め上げました。

その後も高齢者事業団で働き、農繁期には今も知人の農作業を手伝っています。

趣味は働くことと野菜作り。自宅600坪(約2000平方メートル)の畑では、トマト、キャベツ、大根、じゃが芋、かぼちゃなどが次々と収穫を迎え野菜がいっぱい。「野菜作りは負けないよ」。

はつよさんは、すぐ前が海だったという青森県北金ヶ沢(西津軽郡深浦町)の前浜育ち。漁師一家で育った気風の良さで、いつも元気に一家を支え続けてきました。

「内地の人は、若い時みんな防波堤から海に飛び込んで泳いだもんさ」。

結婚50年、長年仕出し料理店で働いていたという料理の腕前と、3月まで副会長だった喜楽クラブで教えていたという日本舞踊の踊り自慢です。

俳句

にっこにこタライの海で水あそび
紫陽花の昨夜の雨にも毬たもち
ボク二歳肩ぐるまして踊ります
おおらかな長寿の村の踊かな
盆踊り二重が三重と地域の和
踊りの輪着慣れたゆかたの裾さばき
その人の白き指先盆踊り
夏の田にしずしず歩む鷺一羽
全校生越中踊り楽しげに
踊りきて街の空気に溶けてゆく
踊り見る後ろ姿に母の居て
縁側の小さき森やつりしのぶ
輪踊りの先陣切って老人会
開拓の志が受け継ぐ踊の輪
笛太鼓齡はすておけ踊りの輪
あふれ出る幸せ頬ばる水蜜桃
十重二十重子等の手泳ぐ踊りの輪
良薬は優しい言葉大暑の日
大地よりひらりとおどる亜麻の花

山内 みゆ
長谷川 きみゑ
小林 ろぼ
高橋 公花
杉山 ひろのり
保科 なほ
徳光 吐苦
杉山 りつ
山口 佐知子
横田 則子
若田 久
高瀬 潤
石澤 清宏
澤田 久美子
松山 蓉子
三島 智
若田 郁
本田 咲
佐々木 里恵

